

【九月の言葉（平成二十七年）】

仏法は、自分の存在が問われなければ  
我が身に響かない。

人間、謙虚になれば 周りの働きがよく見える

人間はどこまでも自分中心に生きていますから、なかなか謙虚になれないのです。自分一人の力で生きているとか、誰にも迷惑かけていないと思いがついています。何が謙虚にさせないのか？

プライド・地位・過去の栄光・学歴・年長・ひがみ・嫉妬・・・、  
いろいろあると思います。では、謙虚になるためにはどうすればいいのか？ 「自分を知ること」です。

本当の自分に気づけば謙虚になれます。

自分を生かしてくれている働きに気づき、いま自分が何をすればいいのかということが見えてくると思います。

仏法を聞いても学んでも、我が身の存在が問われなければ響いてこないし、生きる支えにはなりません。

「あ、自分のことだった」と気づけば、聞くことも楽しくなるし、喜びになっていきます。